



JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674
2026. 3月号

園芸 【ミニトマトを作ろう】

効能
ミニトマトには抗酸化成分のリコピンやビタミンC、β-カロテン（ビタミンA）を含み、栄養価の高い野菜です。疲労回復、動脈硬化予防、免疫力アップなど様々な効果が期待できます。

苗の準備
ミニトマトの苗の品種は、病気に比較的強いとされる「アイコ」をおすすめします。苗は、1番花が咲いていて蕾がついているもの、葉が8枚程度あり、葉と葉の間の節が狭い苗を選ぶと育てやすいでしょう。

畑の準備、定植
定植は4月上旬～5月上旬（最低気温が10℃以上）になります。植え付けの2～3週間前に苦土石灰150g/m²と1週間前に果菜ゴールデン有機150g/m²、マルチサポート1号40g/m²を入れよく耕しておきます。植え付け前に畝を立てマルチを張り、支柱を立てます。支柱は苗が折れない様に交差するか、または直立にしてしっかり立てます。定植当日に株間50cm条間70cmの2条植えにして、苗は花房の向きが通路側になるように植えます。



定植後の栽培管理
主枝の誘引は、支柱に20～30cm間隔でひもを8の字になるように結びつけます。本葉の付け根からでるわき芽はすべてかき取ります。追肥は、第1花房および第3花房の果実が着果した時期に行います。あとは、草勢をみて適宜行います。

追肥の方法は、マルチをまくり、1株当たり、ゴールデン有機をひと握り（約25g）畝肩部を中心にばらまき、軽く土寄せして、マルチを再度かけます。

わき芽や主枝の摘み取りはハサミを使うとウイルス病を伝染させる恐れがあるので、手で行いましょう。また晴天日の午前中に行うほうがよいです。

病害虫の防除について
トマトの露地栽培では、主要な病気は、青枯れ病、灰色かび病、モザイクウイルス病などです。また害虫は、アブラムシ、コナジラミ類、アザミウマ類などです。

梅雨時期の雨が多いと病気が発生しやすいので注意が必要です。またアブラムシによる病気の媒介や、アザミウマによる葉の食害などがあるので、気になる点があれば最寄りの営農生活センターまでご相談下さい。

着果管理～収穫
花房を確実に着果させることが重要ですので、着果ホルモン剤処理を行います。ホルモン剤処理はトマトーンを使い、適切な倍率に薄めて、スプレー容器などで花房に直接散布します。

収穫は、開花から約40～45日で、ヘタの近くまで赤く色づいて熟したものを、朝の涼しいうちに収穫します。

水稲 【事故から身を守る！農業機械の安全対策】

例年、農作業死亡事故件数は250件以上発生しています。事故はいつでも我が身に降りかかる可能性がありますので、予防のためにも日頃から注意して作業に取り組みましょう。



【農作業安全チェックリスト】

- 改めて自らの作業内容等をチェックすることによって、事故防止に努めましょう。
- 定期的に休憩をとり、無理のない作業計画を立てましょう。
- 動きやすい服装で、袖口や裾が締まった服装を身に付けましょう。
- 履き物は、滑りにくい靴やスパイク付きのものを身に付けましょう。
- こまめに水分補給を行い、休憩中は日陰で休むなど、熱中症に注意しましょう。
- 機械に乗り降りする際にはエンジンを止めましょう。
- 万一の事態に備え、携帯電話を身に付けましょう。
- 段差や圃場の端などに寄りすぎないようにしましょう。



【農業機械の特性を知って事故を防ぐ】

死亡や怪我の原因となっている農業機械の取り扱い方法のポイントを確認しておきましょう。

◎刈払機

回転する刃による負傷、欠けた刃先や小石などの飛散物による負傷が多く、事故防止には飛散防止カバーの装着、保護具の着用、特に刈り刃の適正使用が重要です。

◎乗用型トラクター

転倒時の運転者保護で、骨組みだけの安全フレームではシートベルトを併用することで事故を防ぐことができます。

また、窓ガラスやドアがついた安全キャブは車外への飛び出しもなく、深刻なけがを防ぐことができます。特に安全キャブは、雨風を防いでくれるメリットもあり、労働条件の改善としても大いに役立ちます。乗用型トラクターで、ほ場から出て道路を走る際は片ブレーキにせず、ブレーキペダルを確実に連結するよう心がけてください。

乗用型トラクターの死亡事故が多い状況を受けて、道路運送車両の保安基準が改正されました。

道路走行する際には、小型特殊免許または、大型特殊免許の取得が必要です。また、令和9年より乗用型トラクターで道路走行する際には、シートベルトの着用が義務化となります。圃場内での作業時も、転倒・転落防止のため積極的な着用を心がけましょう。



【野菜の病害虫が発生しやすい季節になってきました】

3月になると気温が上がってくるため、雨も冬に比べて多くなり、病気や害虫が発生しやすい環境になってきます。タマネギのベト病が代表的であり、気温が15℃前後で雨や曇天が続く場合はベト病が発生しやすい環境なので注意して観察しましょう。害虫は、春の葉物野菜にアオムシや、エンドウのハモグリバエなどの発生に注意が必要です。

問 い 合 わ せ 先

加西営農生活センター
TEL0790-47-1286

三木営農生活センター
TEL0794-82-6150

小野営農生活センター
TEL0794-63-6905